

たんちよう

No. 127
8月号

HSK

編集／釧路地方腎友会



【目次】

シャント「医療法改正に思う」	—— 竹内昇	1
釧路地方腎友会総会報告		2
道腎協総会報告		3
第2回全腎協総会道大会に参加して	—— 赤神幸男	4・5
ラクダにゆられて	—— 横沢文子	6・7
よもぎの効能	—— 森野ひろし	7
クロスワードクイズ		8
会員の動向		9・10
平成4年度釧路地方腎友会役員名簿		11

シヤント

医療法改正に思う

会長 竹内 昇

一九四八年に制定された医療法は、以後四四年ぶりに改正された。しかも、一九九〇年五月に国会に提出されたあと、二年を経過しての成立である。今回の改正の厚生省のねらいは、「病院の機能分化」と「高齢化社会の進展で増え続ける医療費を抑制する」ことにあるようである。

「病院の機能分化」については、「特定機能病院」と「療養型病床群」、そしてその中間に一般の病院を置いている。

「特定機能病院」とは高度の医療技術を持った病院であり、大学病院や国立がんセンターなど大病院のことである。この病院を受診するためには開業医などの紹介が必要になる。紹介がないと受診できない。(紹介外来制度導入)

一方、「療養型病床群」は、長期療養や慢性の病気の患者向けの病院である。表向き、一般の健常者が体調がよくない場合に大学病院で検査を受けるなどの、いわゆる「三時間待つて三分診療」の傾向を抑え、

患者が大病院から開業医までをバランスよく利用するしくみのようである。

しかし、一般の健常者でさえ「軽い症状と思っても、きちんと検査して安心したい」という人間の心理が無視されるという批判があるようである。

また、最大の問題点は、「患者は大病院にはかかりにくくなる」ということである。更に九二年度の厚生省の調査による開業医の平均年齢は五十九・七歳ということである。このことを考えあわせると、開業医にも頼れないという心配も出てくる。

我々透析患者にとって、透析期間が長くなるにつれて原因の分からない、治療法の見当たらない合併症に悩まされる確立がぐんと高くなる。そんな時、我慢に限界がきたときの頼みの綱は、やはり高度な医療機器・技術を持った大病院なのである。問題はその時にスムーズに治療が受けられるかということなのである。

今年四月段階での「治療費の改正」に見られるように、血液検査などは月一回に減らされることによって、我々不治の病を背負い、治療困難な合併症におそわれる宿命を抱える患者にとっては「早期発見早期治療」も空しいお題目でしかない状況に置かれてしまっているのである。

このことを考えあわせると、何ともやりきれない思いが重くのしかかってくるので

ある。が、しかし我々は手をこまねいてい

るわけにはいかないのである。冒頭にも触れたように、今回の改正は国会に提出されたあと二年間は成立を阻むことができたのである。このことは、全腎協の指導のもと、腎友会会員の活動の成果であり、多くの難病患者団体の団結の力がそうさせたといっても過言ではない。

しかしながら、運動はまだ十分とはいえないのである。今回の医療法の改正や治療費の改正について、会員はもとより、とりわけ非会員の方々には十分に考えてほしいと思う。

我々透析患者の治療環境が真綿で首を絞められるように、じわじわと厳しくなっている現状を——。我々の生きる道は一人でも多くの患者が団結し、大きな声を張り上げて叫ぶしかない現状を——



平成四年度

釧路路地地方腎友会

総会報告

平成四年度の総会が、先日の五月十七日（日曜日）十一時から身体障害者福祉センターで開催されました。開会に先立ち、この半年の間に亡くなられた方たちに黙祷を捧げました。

次に、竹内昇会長が挨拶に立ち、医療点数の問題・会員の拡大について話されました。

又、来賓の伊藤武一道議さんが挨拶されました。そのなかで、釧路市立病院を地域センター病院として認可するように働きかけをし、近々実現するとのことをお話しをされていました。



また、今年七月の参議院選挙のわりには伊藤顧問の応援する「風間ひさし」さんをよろしくとの要請もされていました。

その後、道内各地からの祝電が渡辺喜久さんから披露されました。

次に、釧路市立病院の赤神幸男さんを議長に選出し、議事に入りました。

はじめに、平成三年度活動報告、同決算報告、会計監査報告（池本良一 監査が報告）とすすみ、拍手で承認されました。平成四年度活動方針案、同予算案が提案され、拍手で承認されました。

特に方針案のなかで、これまでに年六回発行していた「たんちよう」が、編集する上で大変厳しい状況が生まれてきたので、年四回にしたいという提案があり、それに対し、ある会員から「家族も楽しみにしているのだから減った分、一枚物でもいいから何か会報を出してほしい」という要望が出されました。

また、医療行政の後退に対する訴えなどを積極的に取り組んでいってはどうか。という意見が出されました。この問題は、道腎協の指導のもと、ハガキ行動や署名活動を展開しているところですが、釧路独自の活動も考えていく必要がある問題です。特に、釧路市以外の地域での通院交通費の実態などを細かく調べ、陳情活動に結びつけていかなければならないと思われれます。

更に、釧路市の通院交通費増額の要望を市に対して働きかけていく必要があるのではないかと意見も出され、事務局でも取り組むことで確認されました。質疑応答が終了し役員改選に入り各病院から新しい役員が出され承認されました。（新役員は別紙の通り）

そして、議事が無事終了し、昼食試食会が始まりました。試食会の前に、市立病院の窪田理裕泌尿科部長がリンの恐ろしさと低リン食品の効用についてお話しをしてくださいました。そうして、低リンラーメンやスープが配られ、会員の皆さんは試食していました。味はどうだったのでしょうか。帰る時に製品を買っていく人が結構いたようです。リンに心配がある方は一度ためしてみてもどうでしょうか。試食会が済んだころから交通費支給、会費の収受が行われました。

こうして、総会が無事に終了しました。参加された会員のみなさんお疲れさまでした。

新しい役員・幹事気持ちをひきしめ、会員家族の生活と権利を守るために活動していききたいと思えます。

道腎協総会報告

七月十八日、十九日に道腎協ブロック会議・道腎協総会が札幌難病センター及びホテルユニオンで開催されました。

釧路から上田弘相談役（道腎協副会長）と橋本巖事務局長が出席いたしました。

十八日のブロック会議では、第二十二回全国総会成功に対するお礼と結果報告がなされました。それによると、参加者数は北海道分五百八十五名、全国合計で約千二百名の参加となったそうです。

これまでの全腎協の総会のなかでも記録づくりの総会だったそうです。

まず、交流会の人数が六百名を越えたことも新記録。更に、日曜日透析患者数（旅行透析者）が新記録。札幌だから受入れができたが、よその町では無理だろうということでした。

釧路からはマイクロバス、列車等を利用して三十五名の会員と家族が参加いたしました。途中、バスで具合悪くなった方も数名おられたようですが、全員二日間の日程を無難に過ごし、帰ってくることができました。

全腎協からも、道腎協からもくれぐれも皆さんによりよくとのことでした。

次に、全腎協運営委員会からの報告が、

広岡副会長（全腎協運営委員）から報告されました。その中で、全国の病院で血液検査がどうなっているのか実態調査が実施されるという話が出され、ある幹事から「一部の病院を注出するだけでははっきりしないので全病院の実態を調査するべきではないか」という意見が出ました。

その問題は、道腎協が詳しく調べるといふことで決着しました。

次の日は朝十時から道腎協総会が開催されました。

開会宣言に続き、物故者に対し黙祷を捧げました。そして、岩崎道腎協会長が挨拶に立ちました。会長は全国総会の協力に対するお礼を述べ、「今回のような沢山の旅行透析者を受け入れるのは北海道しかないでしょう。」と述べておられました。

そうして議事に入り、平成三年度活動報告、決算報告、会計監査報告がなされ、拍手で承認されました。平成四年活動方針案、予算案が型通り提案され承認されました。

新役員挨拶では、上田弘副会長が今後とも協力をよろしくという挨拶を述べました。総会終了の後、記念講演会がおこなわれました。岩見沢市立総合病院副委員長の

大平整爾先生が「CAPDの現況と今後の展望」というお話をしてくださいました。

最近、APDシステム（自動腹膜灌流）

が開発され、寝ている間に透析が終わってしまうというものだそうです。

家庭に無料で貸し出してもらえるそうで働いている人にはとても便利だそうです。

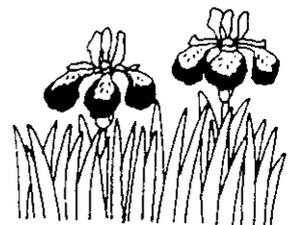
サイクラーと呼ばれる装置を寝る前と起きたときに操作するだけで透析が行えるとても便利な装置。

これまでのCAPDより毒素の除去率が高く、除水量も多くなり、更には腹膜炎が減少したそうです。

皆さんのなかで詳しいことが知りたい方は、釧路地方腎友会事務局までご連絡ください。

こうして道腎協総会を無事終えて、今後の活動を確認し、帰ってまいりました。

釧路では、患者数の増加などの問題が目の前にあります。各病院の患者数や機械台数など実態調査を始めたところです。皆さんも人ごとではない問題ですので、ご協力よろしくお願いたします。



第二十四回

全腎協総会北海道

大会に参加して

釧路市立病院 赤神 幸男

平成四年五月二十三日(土)、釧路駅へ午前九時集合の連絡をいただき、朝より雨が降りだしたために何かと気ぜわしくしていたが、妻の仕事の関係で八時五分に駅に到着して、待合室でテレビを見ながら時を過ごしていた。

考えてみると、六年ほど前に修学旅行の生徒引率のために汽車に乗って以来の旅でしたから、若干気持ちは高ぶり、汽車でどう過ごしていったらよいか。又、病気をしてから妻としか旅行をしたことがなかったので不安もつのも、そわそわ気味であった。

八時五十分頃、小山氏がそつと後ろから背をたたいて、「おはよう」と挨拶してくれましたので、なんとかホッと落ち着いた気分になりました。

「佐藤さん達がもう駅に来ているよ」と告げられ、改札口の方へ行ってみると、佐藤さん、橋本さんがそれぞれに乗車券を配っていました。指定席なんだからと思いつつも何故か気ぜわしく列車に乗り

込んでしまいました。座席につき、ホッとしたり気持ちで一息ついた所で、皆さんそれぞれ弁当やジュースを求めてホームに降り立つのを見て、自分も何か買いたいと衝動的にホームに降り、「週刊現代」を購入。いつも妻に任せきりの自分に苦笑する。

元気のいい頃、駅にきたら必ずといっていいほど立ち食いソバを食べたものだ。旅行好きの私は、途中下車をする度にその駅のソバを食べ、どこそこの駅のソバがおいしかったといった感想を述べあった昔が懐かしく思い出された。



定刻の発車で一路札幌を目指したが、途中、十勝にさしかかる頃から晴れ上がり、帯広の駅では、駅裏の何もなかったところに長崎屋の大きな売り場が立っていて、帯広の発展には目を見張りました。しばらく見ないうちに、帯広はたくましく開拓されているのだらうな！釧路とどちらが道東の中心地になるだらうと深く考えさせられ、うかうかしていられない

いなーと思いました。

占冠のレジャー施設の拡充、夕張のメロン作りと町の最盛に目を見張りながら、車窓を流れる風景に昔日の感慨にふけいりました。新得を出た頃より、皆楽しい昼食をとりました。妻の手作りの弁当をじっくり味わいながら、向かいに座った老夫婦の仲よくいたわり合う姿を見て、とてもほのぼのとしたぬくもりを感じ、より一層楽しい旅行になりました。

千歳を過ぎると、ほとんど家並みが続き、かつて田畑だった田園風景もまばらで札幌に着いた。札幌駅より定山溪バスに乗り込んだが、あわて者の私は、違っバスに乗ってしまった、釧路のみんなに、「どこへいくつもりだったの」とからかわれ、赤面のいたりで小さくなって自ら苦笑しました。

ようやく定山溪行きのバスに乗ったのですが、これが各駅停車のバスで、しかも消毒液のおいがきつくて、石山通りに来た頃から胸がむかつき冷汗が流れてきました。藻岩山の麓に差しかけた頃には我慢できなくなり、降りてハイヤーを使おうと思ったところ、小山氏や佐藤信洋氏のはからいでバスのうしろの座席を譲ってもらい座らせていただきました。そして、窓を開け冷たい風に当たると、あれほど不快だった胸のつかえが一気に消えていった。橋本氏、吉田氏、女性の方々の心づかい、皆さんに自分のこと

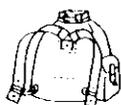
ように優しくいたわってもらい、心より感謝しております。

皆さん本当にありがとうございます。お礼申し上げます。

感謝と恐縮のうちにバスは定山溪ホテルに着きました。私は、部屋に入りすぐベットに横になっていましたが、佐藤氏が看護婦さんを連れてきてくれました。

そうして、血圧を測定してもらいました。「私は落ち着きましたので心配いりません。」という、「私の仕事ですから遠慮せずに測定させてください。」という血圧計を開き「さあどうぞ。」のことばにうながされ、測定していただきました。「血圧も脈も異常ありません。」といわれほっとしたものです。

隣にいた吉田氏が「ちょっと気になるので計ってください。」というので、測定してみると看護婦さんは驚いて「高いので少し横になって安静にしてください。」といいました。十分後に測定し、少し下がりましたが百八十、九十、更に十分後に計ると、百五十、九十に落ち着き、「睡眠前にもう一度測定にきますから安静にしてください。」といいつて帰られました。



本当に親切で優しい看護婦さんでした。旅では色々な人と出会い、色々な人に親切にされ、人のなさを知り、楽しい旅の一夜でした。十八時から二十時まで交流会があり、この交流会が大切なイベントの一つなら、もっとあり方を考えるべきではないかと思いつつ夕食を味わいました。

翌日、実行委員の人たちは朝早くから起きて走り回っていました。そして私たちに「先に会場に行っているので鉋路団は一つにまとまって行動してください。」と念をおして出かけていきました。

本当にご苦労さまでした。会場行きバスの中では大会要項やパンフレットが配布され、総会では大急ぎの議案説明で午前が終了。昼食は、その場で食べることになっていて、ちよつと豪華版の弁当をみんなでいただいた。

午後、私は第一分科会に参加。《透析医療と供給体制》について

透析患者の増加

二 地域医療計画と入院困難

三 検査の定額化と各地の実態

四 審議中の医療の改正、高度医療と低

栄養郡との差

五 透析医療の地域格差実態

六 看護婦さんや医療従事者の不足と実態について

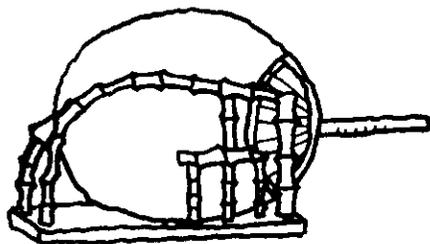
七 離島・僻地の透析医療体制の実態と運動を考える。

八、透析医療の質と今後の供給体制について

これらを柱として十二分に話し合う時間がなく、上面をなめた程度であったが六時間透析を行っていたり、医療器具の開発研究をしている熊本の実態は、日ごろ透析のお世話になっている私には、とても勉強させられました。又、分科会に参加して各地の実態の把握と研究ぶりに深く感銘させられました。

十六時二十四分発のおおぞらで鉋路に帰ってきましたが、このような大会に初参加させていただき私にとってたいへん有意義なものでした。

今後も更に一層頑張って自分のためにも腎友会のためにも張り切っていく決意を高めました。



ラクダに ゆらられて

その一

創路泌尿器科 横沢文子

『月の砂漠をはるばると、旅のらくだが行きました。』という歌を聞くと、皆さんはこの国を思い浮かべますか。

先般、主人の姉夫婦が住むサウジアラビアに行ってきたので、その時の模様を書きたいと思います。

サウジは、首都リヤドに空港はありませんが、成田からの直行便はありません。

まず、バンコクまで行き、そこから約七時間の飛行機の旅。私一人で入国できないので、義兄が身元引受人となってバンコクまで迎えにきてもらう。ターミナルに降り立つと、どこからともなくイスラム教のコーランの声。何とも言えぬ香料の匂いがお出迎え。入関ではほとんど調べられることもなく、三十分ほどで出られた。通常は、アルコールや女性の水着姿の写真を持っているかないかなど二時間ほどかけて調べられるらしい。雑誌など

もダメで、その場で没収。何かとうるさい国。サウジのタクシーは、女性だけで決して乗ってはいけない。どこかに連れていかれ、物を取られ、乱暴され、殺されるというから。サウジでは、ちょっとした強盗でも殺人でも罪は同じ。姉達も、日本人だけで遺跡ツアーに申し込もうとしたが、男の人がいなければ、どんな立派なホテルに泊まっても危険な国だそうです。



姉達が住むリヤドのアラビアホームは二百五十軒ほどの団地です。アメリカ、イギリス、フランス、ポーランド、日本人などの人たちが住み、十五軒で共有するプールがついています。

また、卓球やテニスを楽しむ施設があり、もっぱら仕事よりスポーツをする時間が多いそうです。

現地に着くと早速、アバ、という黒い服とショールを買いました。柄製なのに三千五百円とは安い。

女性は街を歩くときは、目以外の皮膚を外に出して歩いてはいけないそうで、イスラム教徒以外でも黒いショールやスカートを身に着なければなりません。

アバヤを着て、隣近所の日本人の奥さんたちと街に買い物に出かけました。まず、魚スークという市場へ行きました。和商市場とは比べ物にならないほど粗末な商品。それでも、天ぶら用のエビ一キロで千円。刺身用のタイ三匹、アジ二匹、もんごうイカーパイでしめて四千五百円。近くのスーパリーの魚は鮮度が悪いので、時々利用するそう。

そのほか、デイリースーク（日用雑貨の店）や金ショップも見て回ったが、日本人はアラビア人にジロジロ見られる。

そして、値段もふっかけられるので、上手にやりとりして値切るのがポイントのようです。この国はいたる所でインド人、フィリピン人、バキスタン人などが働いている。それなのに、日本人だとわかるとジロジロ見るのは何故かな？

金ショップは、その日の金価格にグラム数をかけて値段が決まるのに、それぞれの店によって値段が違います。さらにアラビア人は十パーセント引き。



実に驚いたのは、その町の中心に首切り広場があり、時計台の下で処刑される

ということ。サウジの新聞には、「○月○日、誰々が処刑される」というのが載っていて、それを見にアラビア人は集まるのだそうです。

空港からアラビアホーム迄の四十キロの間、そこに見えるのは砂漠とラクダの姿。リヤドは、人口が百五十万人ほどで、砂漠の中にポツンとできた都市。海が見たいと思っても、高速道路を百二十キロのスピードで約四時間走らなければなりません。そこは、アルコバルという町で、久々に海を見て感動。やはり人間は、水なしでは生きられない。

普段の水は、ガスや石油を使い、海水を蒸留させて真水を作っています。それをパイプラインで運び、毎日の生活に。

道路などには、毎日散水車が走ります。高い水ですよ。でも、サウジは石油産出国なので、税金を納める必要がないのです。まだまだ書きたいのですが、長くなりましたので、今回はこのへんで。アルコバルや女性の水着姿が見られなくても、税金のない国がいいかな。

この続きは次回の紙面ににて紹介致します。



よもぎの効能

協立病院 森野 ひろし

腎不全に体のかゆみはつきものらしい。急にチリチリとやってくるあの痒みは、何とも我慢のできないしろものである。

痒みにはよもぎが効くと聞いて、土用の花の咲いているよもぎを刈りとり、陰干しにした。

さて、これを風呂に入れるのはたやすいことだが、特有のにおいは家族の拒絶反応をかうことになりそうである。

何か抽出方法をと考えて、よもぎ酒を思い立った。よもぎの太い茎のものをのぞいて、二号瓶に半分くらい詰め、ありあわせの二十度焼酎を入れた。

一カ月ほど経って液を移し変えてみると、濃い茶褐色の液になっている。よもぎ特有のにおいが鼻をつく。

さっそく痒いところへ塗って試してみたら。ピタリである。あの掻いても掻いても治まらない痒みがスーッと消えた。

特に、足の裏のように、掻いても効き目のない部分にはうってつけであった。

しばらく愛用したが、いちいち塗るのが面倒であった。時にはマゴの手を使ったほうが早いということもある。

そのうちに痒みそのものが強く出なくなつたのか、それとも痒みに慣れたのか、いつかよもぎ酒から遠ざかってしまった。

それでも、わが家の特効薬として、今も常備薬の片隅にその座を占めている。後で考えたことだが、よもぎが特効をあらわしたのかどうかは確信が持てない。しかし、余り費用のかかるものでないから、試しに挑戦してみるだけの価値はありそうである。



ヒント

ラブ・ラブ クロスワード

ああ、
入ってきたんだよ。

●エロのカギ

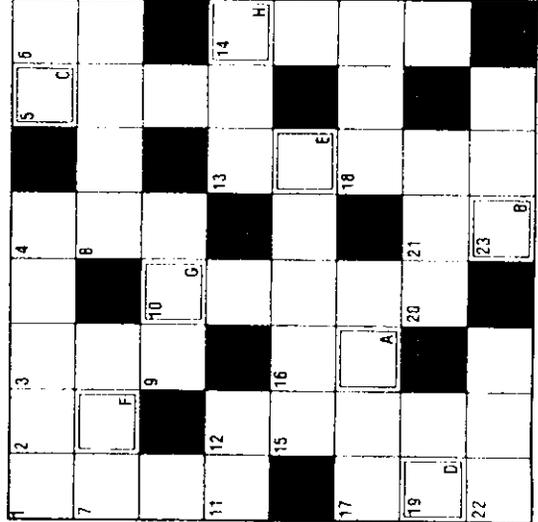
- ① 平成になつてから初めての日
- ② ノコギした切ります。
- ③ 殺人の――はなんだ、やは
- ④ 朝、新妻の作る――の音りで
- ⑤ あしたは早いぞ。――電車は
- ⑥ その腰に小さな紙を貼る男は
- ⑦ 田口通ってくるあのパールス
- ⑧ 親にきりだつて？ いっだ
- ⑨ 何を入れておく気なの。
- ⑩ 何十人に一人という――を
- ⑪ 自分のお金を下して
- ⑫ 最近この人妻のあつた
- ⑬ 置の敷いてある配置

●タテのカギ

- ① あの美、なななな――がある
- ② タツのスケッチは、――の長い
- ③ まりしつと勝負する男。
- ④ 水鏡宮の子分の森さん。
- ⑤ 尊やがた絶好の――ス。彼
- ⑥ 一時警官は保護、一時警官は
- ⑦ 世にのキヤッツ・マイ。
- ⑧ 肥の空屋、――はひた
- ⑨ 交響の――を聴か
- ⑩ 交響の――はひた
- ⑪ 山崎のたの

(今回は応募者が五名しかおりました)
 ○林 (林) 喜久雄 (市)
 ○山 (市) 幸男 (市)
 ○館 (市) 圭子 (市)
 ○横 (市) 沢子 (市)
 ○菊 (市) 地又 (市)
 ○協 (市) 是又 (市)

4月号のクロスワードクイズの答
【キヤッツの一夜】
 でした。



氏名 _____

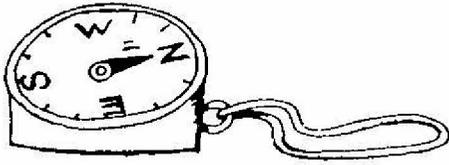
病院名 _____

答え

A	B	C	D	E	F	G	H

◎ 下記の応募者の中から、10名様に
 賞品を当選させます。抽選は4月17日
 正解発表の当日、午前10時までに
 解答を提出してください。解答は、
 郵便で提出してください。提出は、
 〒100 東京都千代田区千代田1-1-1
 日本郵政公社 郵便局 100-0001
 〒100 東京都千代田区千代田1-1-1
 日本郵政公社 郵便局 100-0001
 〒100 東京都千代田区千代田1-1-1
 日本郵政公社 郵便局 100-0001
 〒100 東京都千代田区千代田1-1-1
 日本郵政公社 郵便局 100-0001

【会員の動向】



【新患者】

● 宮崎 善作
阿寒町
酒井 満子
釧路市
五十嵐 信康
釧路市
大平 重夫
阿寒町富上見町
高木 ナナ子
標茶町旭町
山上 清次
釧路市

● 釧路口赤病院
菅野 恒
釧路市
黄川 秀男
標茶町
千葉 信男
釧路市
斎藤 久子
釧路市
西田 義輝
釧路市
伊藤 金吉
釧路市

金子 博

釧路町

野田 勉

始釧路市

助口 栄津子

中標津

前川 文雄

釧路市

堀 良生

中標津町

南 寿美子

釧路市



【新会員】

南 寿美子 (鉏泌) 6月お
 堀 良生 (鉏泌) 6月お
 平沢 清次 (厚岸) 7月お
 助川栄津子 (鉏泌) 7月お
 菅原タツ子 (協立) 7月お
 金子 博 (市立) 4月お



【おくやみ】

河合日出男 (市立) 6月 6日
 飯島かおる (鉏泌) 6月18日
 桜井 新一 (林田) 6月28日
 江口 豊二 (林田) 7月14日

●林田クリニック

佐藤 昭夫
 昭和 9年 4月 5日生
 平成 4年 7月10日開始
 鉏路市鶴野58-5048
 TEL 52-2594

中島 武雄
 大正 4年 2月 7日生
 平成 4年 7月15日開始
 羅臼町峰浜町45
 TEL 01538-8-3016



編 集 後 記

会員の皆様お元気ですか？ 編集作業も一段落。ようやく8月号が発行できるまでになりました。お陰様で原稿もたくさん集まり、編集するのに大変助かっています。今回載らなかった原稿は、次号に載りますのでご安心ください。クイズの応募者が少なくなってきたのが気になりますが、ドンドン応募してください。

鉏路地方腎友会では日帰りハイキングも実施されたようです。鶴居グリーンパーク近辺で楽しい焼肉ハイキングが30名ほどの参加で実施されたとききました。その時の記事は、トピックスでも出したいと思っていますので、参加した方の原稿を募集いたします。

冷たいものおいしい季節ですが、とりすぎに注意して元気でお過ごしください

朝鮮各地方警察友会 年功支會年功支役員名名簿 一覽

会長	竹内 昇	協立病院			
副会長	田丸 聖	林田クリ			
全	赤神 幸男	市立病院			
全	金井 英雄	鉏鋸クリ			編集委員
全	大久保上等	林田クリ			
事務局長	橋本 敏	林田クリ			編集委員
編輯次長	志谷 初江	市立病院			会計業務
編輯次長	船木 崇子	鉏鋸クリ			会計補佐
幹事	小山 勝男	市立病院			
全	古田 敏光	市立病院			
全	福岡 良子	市立病院			
全	館 上子	市立病院			
全	加藤 幸子	市立病院			
全	夏井美保子	市立病院			
全	伊藤 清春	鉏鋸クリ			
全	桜井美恵子	林田クリ			
全	田中 梅子	林田クリ			
全	北村 秀男	林田クリ			
全	花輪 邦子	日赤病院			
全	田村 良徳	協立病院			
全	波佐谷純孝	日赤病院			
会計監査	菅原 三夫	林田クリ			
会計監査	奈良 貞也	鉏鋸市立			
編集委員	渡辺 豊志	協立病院			
編集委員	渡辺 高久	林田クリ			
編集委員	佐藤 信洋	鉏鋸市立			
相談役	上田 弘	協立病院			

昭和四十六年八月十日 第 二 次 修 正 刊 行 日 本 赤 十字 会 会 報 第 四 号
 平成四年四月五日発行 一〇二頁 四 回 部 員
 発行 北 韓 道 分 会 幹 事 長 佐 藤 信 洋 刊 行 所 日 本 赤 十字 会 支 部 長 佐 藤 信 洋